

第3章 目標人口

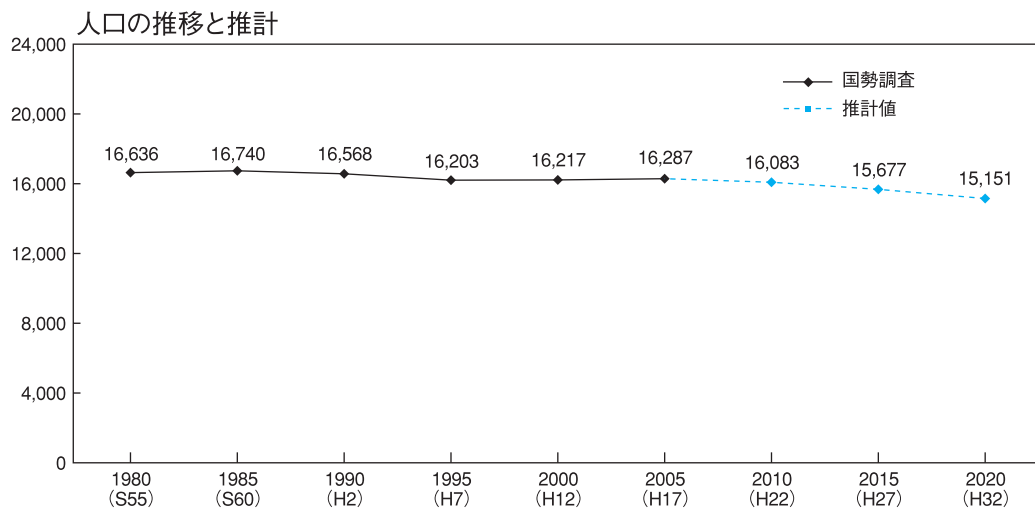
第1節 将来人口の予測

(1) まちが住みよいかどうかを表わす代表的な数値は人口といわれています。本町の人口は、現在約16,400人で、昭和30年の町村合併による新田布施町の発足当時とほぼ同じです。

しかし、少子化に歯止めがかからない中、わが国の総人口は長期的に人口減少が進み、ほとんどの地方自治体で人口が減少するものと予想されます。本町も住みやすい魅力のあるまちづくりに一層努力していかないと、人口の減少が加速する恐れがあります。

(2) 国勢調査によると本町の人口は、昭和60年まで上昇傾向で推移してきましたが、それ以後は下降をたどり、ここ10年はほぼ横ばいで推移しています。平成17年以降の人口の推移を住民基本台帳人口でみると、一時増加に転じたものの、平成18年をピークに減少傾向であることが確認できます。これは、自然現象において減少傾向が続いていることに加え、平成19年以降は社会現象においてもマイナスの傾向が現れてきたことによるものです。

※ピーク
山の頂。頂上。峰。
物事の最高潮。絶頂。
頂点。



(参考) 住民基本台帳による人口 (10月1日現在:人)

平成17年	18年	19年	20年	21年	22年
16,679	16,772	16,741	16,611	16,477	16,402

※コーホート要因法
基準年次の男女別・年齢別人口を出発点とし、これに仮定された男女年齢別生存率、男女年齢別社会人口移動率、女子の年齢別出生率及び出生性比を適用して将来人口を求める方法。

- ・ 平成32年までの人口推計は、平成17年の国勢調査による男女別年齢別人口を基にコーホート要因法によって求めた数値を将来人口の推計値としました。
- ・ 将来人口の推計値として求めた値は、平成32年で15,151人となり、平成17年(国勢調査人口)と比較すると1,136人の減少です。

第2節 目標人口の設定

国勢調査人口と住民基本台帳人口とは、常に若干の差がみられますが、平成17年では『住民基本台帳人口/国勢調査人口』は、1.024となっています。将来ともこの差が続くものと想定して求めたのが下表の推計値です。

このような中、人口の増加を見込むことは困難ですが、今後、本町において若者定住対策、企業誘致、産業の活性化、住宅・生活環境の整備、保健・医療・福祉サービスの充実、教育文化環境の整備などを積極的に進めることにより人口減少の抑制を図り、平成32年（2020年）の目標人口を国勢調査ベースで**15,300**人、住民基本台帳人口で**15,700**人とします。

※ベース
土台。基盤。基準。

目標人口の想定

27年の目標人口 = 27年の推計人口 + 約120人

32年の目標人口 = 27年の推計人口 + 約150人

	実績			推計			目標	
	平成7年	12年	17年	22年	27年	32年	27年	32年
国勢調査人口 (A)	16,203 人	16,221 人	16,287 人	16,083 人	15,677 人	15,151 人	15,800 人	15,300 人
住民基本台帳人口 (B)	16,609 人	16,618 人	16,679 人	16,469 人	16,053 人	15,514 人	16,200 人	15,700 人
B/A	1.025	1.024	1.024	1.024	1.024	1.024	1.025	1.026